

報道関係者各位

2022年 7月 28日

企画展「海のくらしアート展——モノからみる東南アジアとオセアニア」

2022年9月8日(木) ～ 2022年12月13日(火)

新型コロナウイルス感染症の状況によっては、会期・イベント等を変更・中止する場合があります。

国立民族学博物館(大阪府吹田市千里万博公園10-1)では、企画展「海のくらしアート展——モノからみる東南アジアとオセアニア」を2022年9月8日(木) ～ 2022年12月13日(火)まで開催します。



展覧会について

日本の西南に隣接する東南アジア島嶼部と、東南に隣接するオセアニアは、世界でもっとも島の数が多い地域です。今から約4000年前、南中国から台湾付近を起源とする人びとが、海を越えて東南アジアの島じまを経てオセアニアの島じまへと拡散しました。言語学的にはオーストロネシア語群を話す人びとの祖先集団と考えられています。その後の歴史の中で、これらの島世界へ移住した人びとは、海のくらしと密接にかかわる多様で独自の文化や精神世界を発展させてきました。

国立民族学博物館には、おもに19世紀後半から20世紀後半にかけて、これらの地域で収集された数多くの収蔵資料があります。今回の企画展では、本館の収蔵資料の中から、東南アジアやオセアニアの島じまにおける海のあるくらしや、装飾やアート性の高い資料を厳選して展示します。島世界へ移住し、適応した人びとの豊かな知恵や技術、そして精神世界をご堪能ください。

資料点数

標本資料等:約200点、写真資料:約70点、動画資料:17点

みどころ

・「海の民」による装飾

東南アジアやオセアニアの海域世界には、海と密接に関わりながら、島や大陸の沿岸部にくらししてきた「海の民」とも呼べる人びとのくらしが営まれてきました。その長い歴史のなかで日常的に利用され、洗練されてきたさまざまなモノたち。海の民たちは舟や櫂に彫刻や彩色を施し、美しく装飾してきました。海域世界では、人びとが身につける装飾品にも、貝など海から得られる素材が好んで使われています。本展では海と島の世界にくらす人びとの多彩なモノたちを通し、そこに認められるアート性や、アジアとオセアニアという地域をこえた共通性について考えます。

・精神世界と海の関わり

美しく装飾された舟は、死者や霊を乗せ、この世とあの世をつなぐモノとなることもあります。マレーシアの鳥舟、タイの竜頭舟といった舟、舟形の儀礼土器やお守り、オセアニアにおける貝や動物骨を利用した多様な仮面、儀礼具を通して、海域世界に暮らす人びとの精神世界、他界観を紹介します。とくに鳥舟、竜頭舟など本館が所蔵する貴重な舟資料は、初の一般公開となります。

・琉球とのつながり

今回は同じ島世界である琉球諸島で出土した貝製品や骨器の一部もご紹介します。これらの展示は沖縄県立博物館・美術館や沖縄県立埋蔵文化財センターのご協力で実現しました。その多くは先史時代の考古遺物ですが、時代や地域を超えて、海のくらしの中で作られてきた道具や装飾品としての共通性や独自性を感じてもらうことができるでしょう。

展示構成（コーナー名は後日変更になることがあります。）

- 1章 - イントロダクション——海の民のくらしと歴史
- 2章 - 漁具からみえる海洋生物とヒト
- 3章 - 貝と装飾品の世界
- 4章 - 舟造りにおけるアートな世界
- 5章 - 海の生物・舟に象徴される人びとの精神世界

実行委員長

小野林太郎(国立民族学博物館准教授)




専門は海洋考古学、東南アジア・オセアニア研究。主な著書に『海域世界の地域研究—海民と漁撈の民族考古学』、『海の人類史—東南アジア・オセアニア海域の考古学』など。インドネシアやミクロネシアの島じまでの発掘から、島世界における人類史について研究してきました。近年では沖縄の島じまでも海とヒトの関係史をテーマに水中遺跡や洞窟遺跡の調査を展開中です。今回はそんな島じまにおける海のあるくらしとモノの共通性や独自性について考えます。

実行委員

秋道智彌 (山梨県立富士山世界遺産センター 所長・国立民族学博物館名誉教授)
 片桐千亜紀 (沖縄県立埋蔵文化財センター 主任研究員)
 櫻永真佐夫 (国立民族学博物館 教授)
 後藤明 (南山大学 人類学博物館 教授)
 長津一史 (東洋大学 教授)
 丹羽典生 (国立民族学博物館 教授)
 信田敏宏 (国立民族学博物館 教授)
 藤田祐樹 (国立科学博物館 人類研究部研究員)
 ピーターJ.マシウス (国立民族学博物館 教授)
 山崎真治 (沖縄県立博物館 美術館主任学芸員)

開催概要

展 示 名	企画展「海のくらしアート展——モノからみる東南アジアとオセアニア」 Maritime People and Art of Their World : Material Culture in Southeast Asia and Oceania
会 期	令和 4(2022)年 9 月 8 日(木) ~ 令和 4(2022)年 12 月 13 日(火)
会 場	国立民族学博物館(大阪府吹田市千里万博公園 10-1) 本館企画展示場
開館時間	10:00~17:00(入館は 16:30 まで)
休 館 日	水曜日(ただし、11 月 23 日(水・祝)は開館、翌 24 日(木)は休館)
観 覧 料	一般 580 円(490 円)、大学生 250 円(200 円)、高校生以下無料 ※()は 20 名以上の団体料金/リピーターは団体料金を適用 ※本館展示もご覧いただけます
主 催	国立民族学博物館
協 力	国立科学博物館、沖縄県立博物館・美術館、沖縄県立埋蔵文化財センター、公益財団法人千里文化財団、NIHUグローバル地域研究プログラム「海域アジア・オセアニア研究」国立民族学博物館拠点
特 別 協 力	船の科学館「海の学び ミュージアムサポート」
	
後 援	日本オセアニア学会、東南アジア考古学会、日本動物考古学会

関連イベント

■みんぱくゼミナール

「モノからみる海のある暮らし——東南アジア・オセアニアの漁具・舟具・装飾品」

会 場	国立民族学博物館 みんぱくインテリジェントホール(講堂)
日 時	9月17日(土)13:30~15:00 (13:00開場)
講 師	小野林太郎(国立民族学博物館准教授)
参加方法	事前申込制(先着順)／参加無料
内 容	海域世界となる東南アジア島嶼部やオセアニアには、さまざまな漁具や舟、貝などの海産資源を素材とする装飾品があります。両地域での共通性も高いこれらのモノ達から見えてくる人類と海の歴史・文化について紹介します。



マレー半島やタイ南部の漁船コレクション
(2020年撮影)

■みんぱくウィークエンド・サロン——研究者と話そう

「モノが語る海のある暮らしと人びとの精神世界」

企画展資料を通して、島世界における海のある暮らしや精神世界について紹介します。

会 場	国立民族学博物館 第5セミナー室(本館2階)
日 時	9月11日(日)14:30~15:15 (14:00開場)
話 者	小野林太郎(国立民族学博物館准教授)
定 員	42名
参加方法	申込不要／当日先着順／要展示観覧券
内 容	東南アジアやオセアニアの島世界で製作され、使われてきたモノからは人びとが海での暮らしを豊かなものにするための創意工夫や、さらには精神世界を垣間見れます。ここでは企画展資料をとおして、島世界に生きる人びとの知恵や海洋適応の様子を紹介します。



神像付き椅子
メラネシア パプアニューギニア
(標本番号 H00010329)

「漁具にみるヒトと海の生き物」

東南アジアやオセアニアの漁具から、ヒトと海の生き物の関係性について紹介します。

会 場	国立民族学博物館 第5セミナー室(本館2階)
日 時	10月2日(日)14:30~15:15 (14:00開場)
話 者	秋道智彌(国立民族学博物館名誉教授)、小野林太郎(国立民族学博物館准教授)
定 員	42名
参加方法	申込不要／当日先着順／要展示観覧券
内 容	東南アジア・オセアニアの島世界に生きる人びとは、海の生き物の習性や行動をたくみに利用した漁労をおこなってきました。そのなかから、凧揚げによるダツ漁、奇妙な形のうきと「くの字」のはりによるトビウオ漁、タコ石によるタコ漁などを紹介します。



サゴヤシの葉で凧を作り、クモの巣を餌としてダツを獲る(マライタ島 ソロモン諸島
1975年1月撮影:秋道智彌)

「オセアニア展示からみる人類の海洋世界の進出」

人類はいかにして海洋世界へと進出したのか、本館展示場から解説します。

会 場	国立民族学博物館 第5セミナー室(本館2階)
日 時	11月27日(日)14:30~15:00 (14:00開場)
話 者	丹羽典生(国立民族学博物館教授)
定 員	42名
参加方法	申込不要/当日先着順/要展示観覧券
内 容	本館のオセアニア展示場は、人類がオセアニアにおいて海洋世界へと進出したことを念頭において組み立てられています。今回のウィークエンド・サロンでは、企画展「海のくらしアート展」への導入に代えて、オセアニア展示場から人類の海洋世界への進出をお話します。



パンノキを手斧で削り櫂をつくる男性
(ミクロネシア チューク州ウルル島
1974年 撮影:須藤健一)

■ワークショップ

「海のくらしの手工芸——パンダナスで編むものづくり」

「パンダナス」を知っていますか？東南アジアやオセアニアの島じまの海辺に生える植物で、人びとは実を食べたり、乾燥させた葉を編んでマットをつくったりしています。海水に強い葉は、オセアニアでは古くからカヌーの帆としても活躍してきました。植物からできた帆をもつカヌーは、重い石貨を運んで海をわたるほど、力強くしなやかです。このワークショップでは企画展「海のくらしのアート展」を見学したのち、パンダナスの葉を編んでコースターまたは土瓶敷きをつくります。「海のくらし」を体験してみましょう。



パンダナスの木(撮影:小野林太郎)

会 場	国立民族学博物館 みんなくインテリジェントホール(講堂)、 企画展示場、オセアニア展示場
日 時	9月18日(日)、9月19日(月・祝) 午前の部 10:30~13:00(受付開始 10:00-) 午後の部 14:00~16:30(受付開始 13:30-)
講 師	小野林太郎(国立民族学博物館准教授)、ピーターJ.マシウス(国立民族学博物館教授)
指 導	池原美智子(石垣島やちむん館工房館長)ほか1名
対 象	小学5年生以上
観 覧 料	要展示観覧券(ただし、高校生以下は不要)
参 加 費	各回500円
持 ち 物	汚れてもよい服装
定 員	各回12名
応募方法	事前申込制(先着順) 定員になり次第、受付終了 受付期間:8月18日(木)~ 申込みフォームまたは往復はがきにて。1通につき2名まで応募可能
問い合わせ先	企画課 電話 06-6878-8532 問い合わせ時間:平日(月~金)9:00~17:00



※好きなほう1つを制作できます。
左:土瓶敷き(直径約15cm)
右:コースター(直径約11cm)

■友の会講演会

第130回東京講演会 「島世界に進出したサピエンスと海のある暮らし」

会 場	【東京会場】 モンベル御徒町店 4階サロン
日 時	10月23日(日)13:30~15:00
講 師	藤田祐樹(国立科学博物館研究員)、小野林太郎(国立民族学博物館准教授)
内 容	アフリカで誕生したわたしたちホモ・サピエンスは、やがてアジアやオセアニアの島世界へも進出しました。島への移住には海を越えるだけの技術や、漁撈など海の利用が不可欠です。この講演会では、島世界へと移住したサピエンス集団の果たした海洋適応の人類史について、東南アジアやオセアニア、琉球の事例から紹介します。
協 賛	株式会社モンベル
参加方法	事前申込制(先着順)／友の会会員・モンベルクラブ会員無料、一般500円



舟で漁場へむかう海サマ人
(撮影:小野林太郎, 2003年)

第530回友の会講演会 「カヌーと暮らし——海に生きるオセアニアの人びと」

会 場	【大阪会場】国立民族学博物館 第5セミナー室 (本館2階)
日 時	11月5日(土)13:30~15:00
講 師	須藤健一(堺市博物館館長、国立民族学博物館名誉教授)
内 容	オセアニアの島じまにくらす人びとは、私たちと同じアジア系の人類集団です。「太陽の出る東方に生命の源と新しい島がある」と信じて大海原を航海したといわれています。その大航海の足は大型のダブル・カヌー。今でも、島じまの往来や魚とりにカヌーは必需品です。カヌーをつくり、海を生活の場にしてきた島人の生き方を考えてみましょう。
参加方法	①会場 ②オンライン ※一般参加は会場のみ 事前申込制(先着順)(友の会会員は会場参加に限り事前申込不要)／友の会会員無料、一般500円



ハワイからタヒチへ向かうダブルカヌー・ホクレア号
Ben R. Finney
Hokule'a: The Way to Tahiti, New York:
Dodd, Mead & Company, 1979

関連出版物

2023年 国立民族学博物館オリジナルカレンダー
海のくらしアート——東南アジアとオセアニアの漁具・舟具・装飾品(仮)

2023年のオリジナルカレンダーは企画展「海のくらしアート展—モノからみる東南アジアとオセアニア」より掲載資料を選びました。

カヌーやその加工具となる手斧、釣り針やその他の漁具、貝をおもな素材とする多様な装飾品など、東南アジアやオセアニアの島々で生きる人びとの生活道具には、フォルムの美しさや高いアート性をもつ装飾が認められます。

海を生活の場とする人びとが生み出したモノの魅力を一年をとってお楽しみください。

- ・協力:国立民族学博物館
- ・制作・発行:公益財団法人千里文化財団
- ・2022年8月31日発行(予定)
- ・定価:1,430円(税込・予定)
- ・ミュージアム・ショップ(店頭及び online shop)にて9月より発売



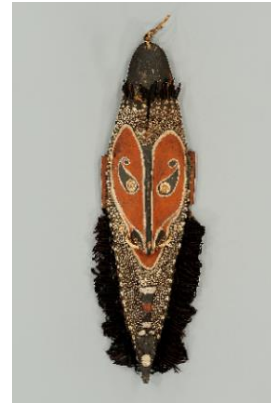
写真はイメージです。

企画展「海のくらしアート展——モノからみる東南アジアとオセアニア」

広報用画像リスト



【1】企画展チラシ



【2】舞踏用仮面

/メラネシア パプアニューギニア 東セピック州/収集:1988年



【3】貝製 首飾り(真珠母貝)

/ポリネシア ソシエテ諸島/収集:1988年



【4】オセアニアの多様な貝製・骨製釣針たち



【5】プルタラ・インデラ舟(模型)

/マレーシア トレンガヌ州 クアラ・トレンガヌ/収集:1990年



【6】クラカヌー用 波切り板

/メラネシア パプアニューギニア ミルンバイ地方 キリウイナ島/
収集:1984年



【7】木彫や装飾が美しい儀礼用櫂



【8】マレーシアのサバ州にくらすサマ(バジャウ)人の海上集落
(長津一史撮影)

これらの広報画像はデータにて提供可能です。
ご入り用の画像があれば、総務課広報・IR係まで次頁申込用紙にてお申し込みください。
資料名につきましては、展示場での表記と異なる場合がございます。

企画展「海のくらしアート展——モノからみる東南アジアとオセアニア」 広報用画像利用申込用紙

〔E-mailでお申し込みの場合〕 koho@minpaku.ac.jp
〔FAXでお申し込みの場合〕 FAX番号: 06-6875-0401

【ご希望の画像番号】

--

【貴社・貴機関についてお知らせください。】

貴社・貴機関名	媒体名
ご担当者名	所属部署
ご住所 〒	E-mail
電話番号	FAX番号
ご掲載・放映の予定日が決まっている場合	年 月 日

【プレゼント用招待券】(ご希望の場合はどちらかにチェックを入れてください)

3組6枚 5組10枚

※チケット発送先が上記所在地と異なる場合は、下記にご記入ください。

発送先 〒

【広報に関するお願い】

- 写真使用に関するお願い、注意事項
 - ・クレジットには次のとおり記載してください。
 - 【2】～【7】国立民族学博物館蔵
 - 【8】撮影者名を入れてください。
 - ・写真(画像)のトリミングや文字乗せはご遠慮ください。
 - ・作品写真の使用目的は、本展の紹介のみとさせていただきます。なお、本展覧会終了後の使用はできませんのでご了承ください。
- 本館の基本情報等の確認のため、E-mailまたはFAXにて、掲載記事、番組内容の原稿等を下記連絡先でお送り願います。
- お手数ですが、掲載紙・誌または録画媒体を2部お送りください。

【お問い合わせ】 国立民族学博物館 総務課 広報・IR係
電話:06-6878-8560(直通) FAX:06-6875-0401 E-mail: koho@minpaku.ac.jp
プレス向けウェブサイト:www.minpaku.ac.jp/press